

## エターナル・ラブ・イスラエル ☆ニュースレター 3号☆



- 事務局：〒226-0027 横浜市緑区長津田 7-17-16-503 TEL:090-8729-0856
  - ホームページ：<https://eternalloveisrael.amebaownd.com>
  - メール：[eternalloveisrael@gmail.com](mailto:eternalloveisrael@gmail.com)
  - 銀行口座：三菱東京UFJ銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
  - 郵便振込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル
- 代表：宮本 純子

☆新たなチャレンジに向けて☆

宮本 純子



去る4月1日(イエス様の復活祭イースターと過越しの祭りの重なる特別な日、しかも初穂の祭りの初日)エターナル・ラブ・イスラエルの活動を再開して初となる決起集会にイスラエル・メシアニック・ジュー連合の議長であるハナン・ルカス先生をお招きして開催できましたことを神様に心から感謝致します！約50名の方々と共に主を礼拝できましたことを心から感謝致します！

エターナル・ラブ・イスラエルは、まさに神様が建て直してくださいました！

活動再開の経緯を証しするように神様から示され、一歩前進して証しさせて頂きました。

エターナル・ラブ・イスラエルの新たなチャレンジ、ビジョンも宣言しました。

① メシアニック・ジューの講師をお招きして、エターナル・ラブ・イスラエルの集会をこれからも多く

開催します！イエス様を信じて救われたユダヤ人(メシアニック・ジュー)の講師から聖書の御言葉からのメッセージを聞くことは、聖書理解が深まります！また、メシアニック・ジューの救いの証しは、ユダヤ人伝道にとって大切です。

今回、ハナン・ルカス先生の証しから、私は改めて「イエスに出会ったユダヤ人」の著者であるダリア・アロンさんや、メシアニック・ジューの多くは、外国人クリスチャンとの出会いを通して救われていることを思わされました！やはり、キリストの愛を持ってユダヤ人に福音をお返しすることが大切だと改めて思わされました。ユダヤ人は、迫害されてきた試練の歴史がありますので、私たちがユダヤ人をキリストの愛で愛し、イスラエルのために祈り、祝福することが大切なのです。

②今、日本にイスラエル人が年間3万人訪れています。イスラエルに行かなくてもこの日本にいても私たちはユダヤ人伝道が出来るのです！特に2020年には東京オリンピックがあります。今後さらに多くのユダヤ人観光客が増えるでしょう。

セカンドステージでは、ユダヤ人観光客を迎えるゲストハウスとして、ホストファミリーとして彼らに福音を伝えます！

今は、家の教会ですが、きちんとエターナル・ラブ・イスラエルの事務所兼メシアニック・コングリゲーションつまり教会、そしてユダヤ人のためのゲストハウスを建てようと思います！最善の場所が与えられるようにお祈りください。

エターナル・ラブ・イスラエルが日本でのユダヤ人伝道の拠点となれるようにどうかお祈りください。

私たち一人一人に神様はチャレンジを与えておられます！

「神様のためになにができるだろうか？」神様からのチャレンジに答えていきましょう。

### ☆セミナーDVDのご案内☆

☆「我らの過越しの小羊なるキリスト」ハナン・ルカス師 DVD

☆「過越しの祭りの食事、セデルの深い意味」ハナン・ルカス師 DVD

☆「預言的視点から見た主の例祭(レビ記23章)」ハナン・ルカス師 DVD

いずれも1000円(税込)です。ご注文は同封の振込用紙をご利用ください。

# エターナル・ラブ・イスラエルが決起集会

## イスラエル・メシアニック・ジュー連合議長が講演



来日講演したイスラエル・メシアニック・ジュー連合議長のハナン・ルカス氏＝1日、アットビジネスセンター池袋駅前(東京都豊島区)で

在日ユダヤ人伝道団体「エターナル・ラブ・イスラエル」(宮本純子代表)の決起集会が1日、アットビジネスセンター池袋駅前別館(東京都豊島区)で開催された。集会では、来日したイスラエル・メシアニック・ジュー連合議長のハナン・ルカス氏が、「預言的視点から見た主の例祭」と題してメッセージを伝えた。

エターナル・ラブ・イスラエルは、元イスラエル宣教師の宮本さんが1993年に設立した。宮本さんは17歳でユダヤ人伝道への召命を受け、当時24歳で同団体を設立。その頃は露天商としてユダヤ人が日本を訪れることが多く、ヘブライ語のトラクトや聖書を配布し、日本国内だけで約3千人のユダヤ人に福音を伝えてきた。結婚を機に10年間活動を休止していたが、昨年から再開。決起集会には、初期の頃からエターナル・ラブ・イスラエルの働きを支えている人や、ユダヤ人伝道に関心のある約50人が参加した。

この日は、イエス・キリストの復活を記念するキリスト教の祭典「イースター(復活祭)」だったが、今年はこちらはちょうどユダヤ教の三大祭りの1つである「過越の祭り」と重なった。過越の祭りは、奴隷生活を送っていたイスラエルの民がエジプトから脱出した出来事を記念する行事で、今年は3月31日から4月6日まで。ルカス氏は講演の他、この期間に食べる「セデル」と呼ばれる食事の解説も行った。

集会の初めには、宮本さんが10年ぶりに活動を再開した経緯を説明した。宮本氏は20歳の時に初めて訪問して以来、イスラエルを20回も訪れている。長い時は半年間余りも滞在し、エルサレム旧市街にある聖公会系のクライストチャーチで奉仕するなどした。しかし、日本を訪れるユダヤ人露天商が少なくなったこともあり、2005年頃からは行き詰まりを感じ、精神的にも追い詰められてしまった。そして、07年5月にイスラエルを訪問したのを最後に同年7月に結婚し、引退した。14年間続けてきたユダヤ人伝道のすべてを「心の中の大きな箱にしまい、鍵をかけました。そしてその鍵を神様にお渡ししました」と当時を振り返る。



10年ぶりに活動を再開した経緯を話す宮本さん

しかし3年前、ある出来事が起こった。実家で一人暮らしをしていた父親が自殺したのだ。「変わり果てた父親の遺体を何時間も見つめていました」。宮本さんは18歳の時、殺人事件で母親を亡くしており、その時と同じように心の底から泣いて神に祈ったという。遺品を整理する中で、父親がエターナル・ラブ・イスラエルの資料の多くを保存していたことを知った。その時はまだ、資料が入った箱さえも空けられない状態で、一部を残してほとんど処分した。

それから半年後、今度は自宅を訪れた友人に、かつてイスラエル宣教師であったことなどを話す機会があった。宮本さんの話を聞いたその友人は自らもイスラエルを訪れ、宮本さんと聖書の学びも始めるようになった。その友人を通して人も集まるようになり、17年1月には家の教会として「シャローム教会」を始めることに。そして、祈りの中で「起きなさい。目覚める時が来たのです」との言葉が与えられ、同年8月からエターナル・ラブ・イスラエルの活動を再開した。



初期の頃からエターナル・ラブ・イスラエルの働きを支えている人や、ユダヤ人伝道に関心のある約50人が参加した。

宮本さんの証しに続いて、ルカス氏が講演した。ルカス氏は、イスラエルが建国された1948年に生まれた。ポーランドに住んでいた両親はホロコーストの生き残りで、イタリアなどでの難民生活を経て、建国されたばかりのイスラエルに移住。その年に生まれたのがルカス氏だった。徴兵制のあるイスラエルで3年間兵役し、実際に戦争も経験した。イエス・キリストを信じたのは28歳の時。外国人のクリスチャンとの出会いを通して信仰を持つようになった。

ユダヤ人として他の民族から憎まれていると感じていたが、その人はユダヤ人であるルカス氏を愛してくれたという。理由を聞くと「イスラエルの神を愛しているから。イエス様はユダヤ人。だから私もユダヤ人を愛するのです」と言われた。「それで心が捉えられました。ユダヤ人を伝道する最良の方法は、ユダヤ人を愛することです」と伝えた。

ルカス氏はこの日、レビ記23章に書かれている例祭(決められた時期に行う祭り)について説明した。ルカス氏によると、23章には、▽安息日、▽過越の祭り(種なしパンの祭り)、▽初穂の祭り、▽七週の祭り、▽ラツパの祭り、▽贖罪の日、▽仮庵の祭りの7つの例祭が記されている。



過越の祭りの食事「セデル」で食べる「マツツァ」を紹介するルカス氏(左)。マツツァはイースト菌で発酵させていないパン(種なしパン)で、3枚を使う。3枚という数は、ユダヤ教徒にとっては父祖3代、祭司の3段階(祭司、レビ人、イスラエル人)を象徴するが、メシヤニック・ジュー(ユダヤ人クリスチャン)にとっては三位一体を象徴する。

初穂の祭りは7日間にわたる過越の祭りの間に行われる。この期間には羊を屠(ほふ)るが、「それは世の罪を取り除く神

の子羊、イエスを表している。ユダヤ人だけではなく、すべての国民のための贖(あがな)い」とルカス氏。現在、キリスト教で祝われているイースターの原型であり、預言的な成就でもあると説明した。また七週の祭りは、イスラエルは農業祭として祝われているが、キリスト教ではペンテコステに相当すると指摘。約3500年前に記されたレビ記の記述を預言的視点で見ると、すでに幾つかが成就していると語った。

講演後、ルカス氏はセデルで食する象徴的な意味のある食品1つ1つを紹介。エジプトでの苦い奴隷生活を象徴する苦菜「マロール」や、イースト菌で発酵させていないパン(種なしパン)の「マツツァ」など、実物を見せながら解説した。最後には、参加者全員でヘブライ語の賛美を歌い、ルカス氏が民数記6章24～26節にあるアロンの祝祷をささげ、会は閉じた。

クリスチャントウデイ 掲載

## ☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』私の兄弟、私の友人のために、さあ、私は言おう。『おまえのうちに平和があるように。』私たちの神、主の家のために、私は、おまえの繁栄を求めよう。」(詩篇 122:6~9)

●アメリカのトランプ大統領がテルアビブにあるアメリカ大使館を、5月14日にエルサレムに置くことを宣言しました。エルサレムに平和がありますように。神様のご計画、主の御心だけがなりますように。

●世界中の政治的指導者たちが救われて、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進めることが出来ますように。

「知恵であるわたしは分別を住みかとする。そこには知識と思慮とがある。主を恐れることは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれたことばを憎む。摂理とすぐれた知性とはわたしのもの。わたしは分別であって、わたしには力がある。わたしによって、王たちは治め、君主たちは正義を制定する。わたしによって、支配者たちは支配する。高貴な人たちはすべて正義のさばきつかさ。わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見つける。」(箴言 8:12~17)

●日本とイスラエルの友好関係がさらに深まり、日本がイスラエルを祝福する国となりますように。

●日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために、神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。ユダヤ人伝道の重荷を持つ後継者たちが起こされますように。

●日本で多くのユダヤ人がイエス・キリストと出会い、救われますように。トラクトを用いてくださるよう。

## ☆イーグレイプ「聖地画ポストカード」宮本純子画 聖句入り7枚 ¥500円☆



●一枚を一年がかりで、祈りをこめて描きました。ぜひお買い求めください。伝道に用いて頂ければ嬉しいです。

●ご注文は、同封の振込用紙ご利用頂ければ感謝です。よろしくお願ひ致します。

## ☆2018年ユダヤのお祭りの日程☆

4月19日 ヨム・ハアツマウート(イスラエル独立記念日)

5月3日 ラグ・バオメル (過越の祭りから七週の祭りまでの7週間、オメル(麦の束)を1日ずつ数えて33日目にあたる。ラグとはヘブライ語の数式で33をあらわす。この日には焚き火をたいて一日祝う風習がある。)

5月20日 シャブオット(七週の祭り)

7月22日 テイシャ・ベアブ(神殿崩壊の日。テイシャは9のこと。アブの9日はユダヤ人の歴史の中で、悲しみを覚える日。ヨム・キプールと神殿崩壊の日は断食を行う。)

## ☆献金のお願ひ☆

エターナル・ラブ・イスラエルは、神様が建て直してくださった働きなので、必ず必要を満たしてくださると信じています！ユダヤ人伝道は、とても大切な働きです！どうか再開したばかりのこの何もない小さな働きを覚えてください。捧げてくださるおひとりひとりの上に主の祝福が豊かにありますよう心からお祈り致します。すべてのことを神様に心から感謝致します。